

但馬地域におけるミスジチョウの分布

近藤伸一

本種は北海道から九州まで広く分布し、関東地方以北では平地にも分布するが、中部以西ではおもに山地に生息し、九州では完全に山地の蝶となっている。

兵庫県では6月上旬頃羽化するが、7月中にはカエデ類に産卵して成虫の姿は見えなくなるため、成虫を見る機会が少なく、これまで県下で比較的珍しい種とされていた。卵から孵った幼虫は、カエデ類の葉を食べながらゆっくりと成長し、主に4齢で冬を迎える。幼虫は葉柄の基部を糸でしっかりと固定して、枯れ葉に静止したまま越冬する。1月に入るとカエデ類はほとんど落葉してしまうので、越冬幼虫のいる枯れ葉だけが残るため、分布調査は容易になり、越冬幼虫の調査によって県下各地に分布していることが明らかになった。

県南部における分布調査の結果については、兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布（広畑・佐々木1982）、三田市周辺に於けるミスジチョウの分布（広畑・近藤1982）、東播磨におけるミスジチョウの分布（広畑・近藤・徳岡1984）によって報告されているが、但馬地域においてははまとまった記録がない。筆者は勤務の都合で2年間豊岡市に住み、本種の生息場所を十数箇所確認することが出来た。但馬地域は県南部の生息地と比較すると、生息環境は良好であっても個体数は少ない。また葉柄の基部が糸で固定され台座の跡があるのに、幼虫のいない枯れ葉がよく目につく。当地方は鳥類のエサが冬季に積雪で不足し、鳥類に捕食される幼虫の数が多いのかも知れない。

とりあえず新たに見つかった産地とその他に判明したものを、これまでに発表されている記録と合わせて、但馬地方の現在の分布の状況を報告する。

なお、採集者の明記していないものは、筆者が採集したものである。

〈採集記録〉

豊岡市：百合地（2幼虫，22. I. 1989），福成寺（8），妙楽寺（4）神武山（4）。

出石郡：出石町袴狭（2幼虫，17. II. 1990），出石町宮内（1幼虫，17. II. 1990），出石町奥山（8），出石町名荷谷（3），但東町薬王寺（1幼虫，22. I. 1989）。

城崎郡：竹野町御又（2幼虫，23. II. 1990），竹野町三原（2幼虫，13. III. 1990），香住町下岡（2幼虫，9. III. 1990）。

美方郡：村岡町板仕野（2幼虫，20. I. 1990），村岡町燿山（8），温泉町湯（1幼虫，17. 12. 1982），

温泉町湯中山 (2幼虫, 9. II. 1990), 温泉町扇ノ山 (4), 美方町久須部 (3幼虫, 23. II. 1990), 美方町大谷 (1幼虫, 21. I. 1989).

養父郡: 氷ノ山 (4), 関宮町鉢伏山 (2), 大屋町筏 (4), 大屋町若杉 (4).

朝来郡: 朝来町石田 (1幼虫, 21. III. 1990), 朝来町岩屋観音 (8), 和田山町糸井 (3), 生野町菖蒲沢 (1♂, 10. VI. 1975尾崎勇), 生野町黒川 (1幼虫, 24. III. 1985), 生野町栃原 (2幼虫, 4. I. 1987).

<参考文献>

- (1) 福田晴夫ほか (1983) 原色日本蝶類生態図鑑 (II) 保育社、大阪
- (2) 播磨蝶友会 (1977) ひろおび (2) :15
- (3) 木下賢司 (1979) 床尾山の蝶 IRATSUME (3) :29
- (4) 高橋 匡 (1979) 但馬地方昆虫目録 IRATSUME (3) :51
- (5) 広畑政巳・近藤伸一 (1982) 三田市周辺に於けるミスジチョウの分布について きべりはむし10 (2) :16
- (6) 広畑政巳・佐々木 薫 (1982) 兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布について ひろおび (6) :35~37
- (7) 広畑政巳・近藤伸一・徳岡正己 (1984) 東播磨に於けるミスジチョウの分布について てんとうむし (9) :59
- (8) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣 (1986) 但馬地域の蝶類目録 IRATSUME (10) :82

但馬地域のオオムラサキの新産地について

近 藤 伸 一

オオムラサキは、淡路島以外の県下の広い地域に分布し、その全容については広畑政巳 (1987) が発表されている。

この度、但馬地域の過去に採集記録のない場所で、本種の幼虫を採集しているので報告する。